

赤十字 NOW

千葉 | June 2011 | Vol. 19

▶ 発行所 / 日本赤十字社千葉県支部 〒260-8509 千葉市中央区千葉港5-7 TEL 043-241-7531 FAX 043-248-6812



さあ夏本番!! 君も ライフセイバー

水の事故から
身を守ろう

長い梅雨が明けると暑い夏がやってきます!!
夏といえば海にプールですが、残念ながら水の事故も後を絶ちません。
日本赤十字社千葉県支部では、水の事故から身を守るための
「赤十字ジュニア・ライフセービング教室」を開催します。
この夏、たくさんのキッズライフセイバーが誕生することでしょう。
事故を防いで楽しく遊び、最高の夏の思い出を作りましょう!
(5面に募集記事)

～お悔やみ・お見舞い～

東日本大震災で亡くなられた皆さまのご冥福を心からお祈り申し上げます。また、被災された皆さまにはお見舞い申し上げますとともに、早期の復旧・復興を
お祈りいたします。 — 日本赤十字社千葉県支部職員一同 —

CONTENTS June.2011 vol.19

2・3 スペシャルレポート

そこに、救いたい生命がある～東日本大震災～
・医療救護・赤十字防災ボランティア活動
・こころのケア
・生活再建支援(海外救援金を充当した生活家電贈呈事業)
・義援金(使い途、活動資金との違い)

4 イベントレポート

・赤十字奉仕団技術指導者養成研修会
・高齢者・視覚障がい者疑似体験学習の拡大のために
・僕たちはファーストエイド
・青少年赤十字救急法コンテスト開催
・千葉ロッテマリーンズ赤十字応援デー開催

5 イベントプラン

・WANTED!
・赤十字ジュニア・ライフセービング教室参加者募集
・キッズ献血セミナー 2011 参加者募集
・夏休み親子シアター 長編アニメ「ジュノー」

6 お知らせ

・災害救援品の整備資金のご寄付 ～株式会社千葉銀行～
・成田赤十字病院公開講座のご案内
・赤十字商品のご紹介
・耳より情報 CroKuma くろくま・ぬいぐるみ好評販売中
・赤十字活動資金へのご協力をお願い

東日本大震災

北へ北へ、そこに救いたい生命があるかぎり
～日本赤十字社千葉県支部の災害救護活動～

3月11日、マグニチュード9.0という日本がかつて経験したことのない巨大地震と大津波は、東北地方の沿岸部を中心に壊滅的な被害をもたらしました。被災地では徐々に復興に向けた動きが始まっていますが、避難所をはじめとじていまだに多くの方々が避難生活を強いられています。

日本赤十字社では、地震発生直後から継続して、被災者の生命と健康を守り、生活再建を支える取り組みに総力をあげています。私たち千葉県支部でも、災害発生後ただちに救護活動を開始しました。今後も、被災者に寄り添い、医療やこころのケアなどの活動を継続していくとともに、復興に向けた仮設住宅等への支援など生活再建支援活動を続けていきます。

● 医療救護活動

日本赤十字社は、災害時に備えて、赤十字病院の医師、看護師などを中心に編成される救護班を全国で約500班(約5,200人)常備しています。今回の大震災では、岩手県、宮城県、福島県を中心にこれまでに延べ702班の救護班が派遣され、6万5千人を超える方へ医療サービスを提供しています(5月24日現在)。

千葉県支部では、災害発生の翌日には、成田赤十字病院の救護班が宮城県の石巻赤十字病院に到着。ただちに被災者への救護活動を開始しました。また、千葉県内においては、震災当日、多くの帰宅困難者がいるとの情報を得て、成田国際空港および東京ディズニーリゾートへも救護班を派遣し、体調不良者への対応にあたりました。千葉県支部はこれまでに、宮城県石巻地域・岩手県釜石地域を中心に、dERU(国内型緊急対応ユニット)を含み、救護班17班延べ174名を被災地に送り、懸命の活動を展開しています(5月24日現在)。

日本赤十字社では、各地の災害対策本部と調整しながら、被災地の医療機関の機能が回復するまで、救護所の運営や巡回診療、医療施設へのスタッフ派遣などを、今後も実施していく予定です。



◀石巻赤十字病院で活動する成田赤十字病院救護班
▼救護所テントは診察を待つ被災者であふれた

● こころのケア

大規模な災害により、家族や友人を失ったり、避難生活が長期化する中で、被災者の抱える不安やストレス、心身の疲労を軽減するための「こころのケア」が必要となっています。

日本赤十字社は、救護班を派遣する際には、専門の研修を受けたこころのケア要員を帯同するとともに、こころのケア要員のみで編成されるチームが、地域の避難所等の巡回を行っています。千葉県支部からもこころのケア要員として職員が派遣されました。



◀現地でのこころのケア活動について報道機関の取材をつける支部職員「自分が好きだったことを思い出し、震災前の日常生活のリズムを取り戻すことが大切」と語る

● 赤十字ボランティアも大活躍!

被災された方々の生活支援や避難所でのさまざまなニーズに対応するため、全国から赤十字ボランティア延べ6万人以上が被災地での活動や後方支援活動を行っています。

千葉県支部では、3月12日には支部内に千葉県赤十字防災ボランティアセンターを立ち上げ、日ごろから災害救護訓練や研修を受けた赤十字防災ボランティアの皆さんを中心に、災害救援物資の積み込み作業や、個人ボランティアの受付、各地のボランティアセンターや避難所での活動調整等を行いながら、県内外において、被災した家屋の清掃や土砂の片づけ、避難所でのお年寄りの話し相手など、さまざまな活動を行いました。津波被害の大きかった旭市では、地元の旭市赤十字奉仕団の皆さんが、避難所での炊き出しや避難者の相談対応などを実施。

また、君津市赤十字奉仕団では、県外から同市に避難されてきた方々を招いて食事会を開催するなど、地域に根ざした赤十字奉仕団ならではの被災者に対するきめ細かなサポートを続けています。



▲津波被害が大きかった旭市飯岡地域



▲被災地の高齢者介護施設にてハンドケアでコミュニケーション



▲旭市での活動の様子リーダーシップが発揮される

● 災害救援物資の配布

千葉県支部は、県内8カ所(千葉市、船橋市、成田市、市川市、木更津市、茂原市、旭市、南房総市)に拠点倉庫を有し、さまざまな救援物資を普段から備蓄して、災害に備えています。

今回の震災では、県・市町村の要請を受け、それらの拠点倉庫から毛布等の救援物資を緊急搬送。県内各地で、被災された避難者の方々に配布しました。搬送には千葉県支部と災害時の物資搬送協定を締結している千葉県生活協同組合連合会が協力。また、救援物資の積み込みには赤十字ボランティアも参加し、より迅速な対応を可能にしました。

千葉県支部からの救援物資配分状況

	配布枚数	配布先
毛布	15,670枚	香取市・成田市・富津市・東金市・銚子市・横芝光町・九十九里町・山武市・旭市・勝浦市・いすみ市・御宿町・南房総市・一宮町・白子町・習志野市・成田空港・宮城県
日用品	2,120個	銚子市・九十九里町・宮城県
ガーゼケット	930枚	銚子市・山武市
バスタオル	1,010枚	成田市・山武市・銚子市・九十九里町・いすみ市
敷布	700枚	いすみ市・山武市
安眠セット	1,000セット	宮城県
緊急セット	84セット	旭市・いすみ市・南房総市・宮城県

● 被災者の生活再建支援

日本赤十字社では、東日本大震災で被災された方々の生活再建を支援するため、仮設住宅などに入居される世帯に生活家電6点セット(①洗濯機②冷蔵庫③テレビ④炊飯器⑤電子レンジ⑥電気ポット)を寄贈する事業を行っています。この事業は、海外の赤十字社と赤新月社※から日本赤十字社に寄せられた海外救援金をあてるもので、当該国の国民の皆さんからの浄財が財源となっています。

今後建設される仮設住宅を含め7万世帯への寄贈を計画しており、千葉県の旭市と香取市でも5月17日までに完成した応急仮設住宅230戸へ入居された方々への寄贈が行われました。入居者からは「これならすぐに生活が始められ、本当に助かります」と喜びの声が聞かれました。

※赤新月社とは、イスラム教信仰圏では、国民への宗教的な配慮から、名称や標章に赤十字を使用せず、「赤新月」を使用します。



▲仮設住宅に搬入される生活家電



▲仮設住宅に搬入された生活家電



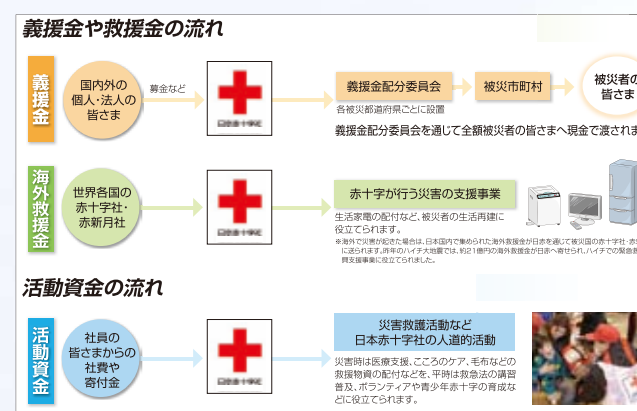
▲海外救援金は避難所の給水設備の整備にも役立てられている © Nobuyuki Kobayashi

● 東日本大震災義援金へのご協力ありがとうございます

「お年玉を使ってください。」と小さな手に握りしめられたお札。保護者の皆さんと共同で行った小学校内での募金活動。千葉県支部にも、県内の個人の方々やさまざまな法人・団体から義援金をお寄せいただいています。

日本赤十字社は、4月13日から、各都道府県に設置された義援金配分委員会からの依頼により、被災県に義援金を送金しています。被災地域の復興を願うお気持ちがいっぱい込められた義援金は、日本赤十字社がお預かりし、被災された方々にお届けいたします。

東日本大震災義援金の受付および送金状況の最新情報については、日本赤十字社ホームページ(<http://www.jrc.or.jp>)をご覧ください。



子どもたちへ、 よりよい指導ができるようになりたい！ ～技術指導者養成研修会を開催しました～

2月16日(水)、千葉県支部では地域で活動する赤十字奉仕団の“疑似体験”技術指導者を増やす研修会を開催しました。

近年、小・中学校を中心に、福祉教育の一環として高齢者や視覚障がい者の日常生活を理解し、支援するための疑似体験学習が活発に行われています。

千葉県支部では、不自由な身体を体験できる専用キットを貸出し、奉仕団員が講師を務めるなどして、学校の取り組みを支援しています。

今回の研修会には指導者を旨す36人が参加。専用キットの使い方や車イスの操作介助などの指導方法を、体験を通して習得しました。参加した団員からは「利用者の立場が理解できた」「子どもたちへの指導にあたっては、相手の立場を理解し、手伝う気持ちを持つことが大切だと感じてほしい」などの感想が聞かれました。

平成23年度、県内の小・中学校から続々と体験学習の要望が寄せられています。

指導者の皆さんは、地域で講師として活躍し、子どもたちへ技術や思いやりの心を伝えることが期待されています。



▲車イスは、押したり引いたり難しいとの感想でした



▲疑似体験キットを装着。前へ進むのも苦労します



▲気持ちはあっても、体が思うように動きません

僕たちはファーストエイダー

青少年赤十字メンバーが 日頃の練習の成果を発揮 ～赤十字救急法コンテストを行いました～

千葉県支部では、青少年赤十字活動の一つとして、児童・生徒(メンバー)が赤十字救急法を身につける取り組みを進めています。その一環として、2月18日(金)に「赤十字救急法コンテスト」を行いました。

これは、日頃の練習の成果を発表する機会として行われたものです。参加者がコンテストへ向けて技術を向上させ、他者への思いやりの心を育てるとともに、万が一の事態に対応するための方法を身につけることがねらいです。

当日は、小学校から高校までのメンバー126人が、チームを組んで「頭頂部切り傷、ひざ擦過傷の手当(小学校3～6年の部)」「鎖骨骨折の疑い、膝擦過傷、額擦過傷、担架による搬送(中学校の部)」「腕切り傷、下腿部骨折の手当、担架による搬送(高等学校の部)」といったそれぞれの課題に挑みました。

順位は観察・手当の正確さ・早さ、傷病者への配慮により決まります。

さらに、中学・高校生の部では、チームワークも評価の対象とするため、当日に各学校混合でチームを編成。技術以外の能力も試されました。

競技では、選手は仲間と協力して、三角巾を使った手当てや副子による固定などを行い、本番に向けて練習を積んできた成果を十分に発揮しました。仲間への応援にも力が入り、会場は熱気に包まれました。



▲息つかいまで聞こえそうな追真の手当



▲厳しい審査も気にしながら…綺麗に仕上がりました



▲傷病者を励ましなが、的確な手当が必要です

「震災なんかに負けないぞ」

津波で被災した男子中学生2人が始球式で力投！ ～千葉ロッテマリーンズ×赤十字応援デーを開催しました～

5月15日(日)、日本赤十字社千葉県支部は、千葉ロッテマリーンズのご協力により、対東北楽天ゴールデンイーグルス戦が行われたQVCマリンフィールド(旧千葉マリンスタジアム)にて、赤十字活動を紹介するキャンペーン「赤十字応援デー」を開催しました。

試合前の「特設ステージ」では、bayfm78の人気DJ きゃんひとみさん・島村幸男さんの司会により、球団主催の「チャリティーオークション」が行われ、井口選手や唐川選手など主力選手の愛用した野球用具を提供していただき、売上金の全額は赤十字活動資金としてご寄付いただきました。

また、球団マスコットのCOOLが盛り上げた心肺蘇生法のデモンストレーションは、笑いを誘う中にも、人命救助の技術習得の必要性を紹介することができました。

試合開始を飾るセレモニーには、球団両監督への花束贈呈とファーストピッチ(始球式)が用意され、3月11日の津波の被害を受けた九十九里町立九十九里中学校(青少年赤十字採用校)球児石山暖(あたか)くんと石綿誠也(せいや)くんが、清田選手と唐川選手が構えるミットに力投しました。石山くんも石綿くんも自宅が床下まで浸水し自転車などが流される被害を受け、毎日欠かさず行っていた野球部の練習も、震災後はしばらく出来なかったそうです。

「震災なんかに負けないぞ」と気合いの入った投球で始まった試合中には、「～そこに、守りたい命がある～」の巨大赤十字リボンビジョンがフィールド内を走りました。

被災地に本拠地を置く両チームの熱戦は、約26,000人の歓喜を誘い、キャンペーンは幕を閉じました。



▲大松選手が参加したオークショングッズ争奪戦が白熱しました



▲AEDデモンストレーションCOOLが盛り上げました



▲大舞台を前に緊張気味始球式直前の2人石山くん(右)・石綿くん(左)
▶憧れの選手と記念撮影

始球式を終えて

石山くんは、唐川選手に向かって気合いの一投。投球後、唐川投手から「頑張ってください」と激励され、自分も同じ言葉を唐川投手に返しました。石綿くんの力強い一球は、清田育宏選手がしっかりとキャッチ。「緊張してしまっただけで、選手から『ナイスピッチング!』と声をかけられて嬉しかったです。」とはにかみしました。震災からの復興に向けて「自分たちができることをまずやりたい。」と話す二人。中学校でまずでにクラスで募金活動などを行っているそうです。



▲回るリボンビジョン



▲東日本大震災義援金募金活動



▲献血・試合前の時間にロッテファン中心にご協力いただきました

WANTED

梅雨が明けたら海へ繰り出そう!!

キッズライフセイバー募集告知!



▲夏の思い出
キッズライフセイバー集合



▲ペットボトルを救命フイ
にして救助します



▲さあ、救助開始!

～赤十字ジュニア・ライフセービング教室の参加者募集～

日本赤十字社千葉県支部では7月24日(日)、千葉市稲毛海浜公園「いなげの浜」を会場に、ジュニア・ライフセービング教室を開催します。
水の事故から生命を守るための知識や技術、応急手当の技術を習得してみませんか。ペットボトルを救命道具にする方法、服を着たまま泳ぐ「着衣泳法」など、盛りだくさんのプログラムは、水の事故の予防と「万が一」の場合に役立ちます。
夏休みの一日、親子でのご参加をお待ちしています。

申し込み方法

電話での申し込み(先着順)

申込先

日本赤十字社 千葉県支部 事業部

組織普及課 奉仕係

Tel 043-241-7531(代表)

※平日の9:00～17:30

日 時:平成23年7月24日(日)9:30～15:00(予定)

会 場:千葉市稲毛海浜公園「いなげの浜」

募集人数:30組(60人)

参加費:1名につき100円(傷害保険料)

プログラム:○身近なものを救命道具にするテクニック(ペットボトルやレジ袋などを利用した簡単な救助法を体験)○洋服を着たまま泳ぐ方法(着衣泳)
○応急手当(心肺蘇生法)の実技体験など



夏休みに「献血の研究」をしてみませんか?

なるほど! 献血ゼミナール

参加のご案内

千葉県赤十字血液センターでは、毎年夏休みに、親子参加型献血セミナーを企画しています。今回は、「献血のしくみ」をテーマに、東京都赤十字血液センターへの見学会を行い、「献血された血液」が「患者さんにお届け出来るようになる」までを、スライド上映やクイズ・施設見学(検査部門・製造部門)を通して学習します。

※内容は小学校高学年生向けとなっておりますが、どなたでもご参加いただけます。
※地震や計画停電等の影響により、変更・中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

献血ゼミナールイメージ



▲献血キャラクター
けんけんちゃんがお出迎え



▲検査・製造部門の見学の様子
献血血液のゆくえは?



▲血液製剤保管庫の見学
命を救う血液が保管されています



▲献血バスの中身はどうなっている?

- 主催 千葉県赤十字血液センター
- 後援 千葉県教育委員会
- 開催日時 平成23年8月4日(木) 11:00～17:00(移動・休憩時間含む)
- 集合場所 千葉県赤十字会館
千葉市中央区千葉港5-7(JR京葉線千葉みなと駅徒歩10分)
(千葉都市モノレール市役所前駅より徒歩5分)
- 会場 東京都赤十字血液センター 東京都江東区辰巳2-1-67
- 参加資格 千葉県在住の小学生児童・生徒及び保護者
※申し込みは、保護者同伴とさせていただきます。
- 募集人数 25組(50名程度)応募多数の場合は抽選
- 参加費 無料
- 持参品 筆記具・飲料・昼食(各自ご用意をお願いします。)-上着(冷蔵庫等に入る場合があります。)-カメラ(記念写真用)
- 申込み切 平成23年7月4日(月)当日消印有効
- 申込方法 ハガキに必要事項をご記入のうえお申し込み下さい。
①郵便番号・ご住所②保護者氏名・性別・生年月日③児童生徒氏名・性別・生年月日(傷害保険加入が必要となります。)*④ご連絡先電話番号(自宅・携帯)
- 宛先 〒274-0053 千葉県船橋市豊町690
千葉県赤十字血液センター内「キッズ献血セミナー2011」係
- お問合せ先 キッズ献血セミナー係 Tel 047-457-9926
(平日9:00～17:00・土日・祝祭日を除く)
- 参加のご案内 ご参加が決まりましたら、7月15日までに案内書をご自宅に送付いたします。



夏休み親子シアター

長編アニメ「ジュノー」

忘れてはならない広島の恩人
原子爆弾が投下された直後の広島で、被爆者の救援活動に奔走したスイス人赤十字医師「ジュノー」の愛と勇気を描いた物語。(実話)

日 時: 8月3日(水) 2回 上映 ①10:30～11:30 ②14:00～15:00
8月4日(木) 2回 上映 ①10:30～11:30 ②14:00～15:00
8月5日(金) 2回 上映 ①10:30～11:30 ②14:00～15:00

会 場: 日本赤十字社千葉県支部6階会議室
千葉市中央区千葉港5-7(駐車場なし)

対 象: 親子(推奨: 小学校高学年以上)
定 員: 各上映200人(定員になり次第締め切り)
費 用: 無料



© アニメ・ジュノー制作委員会

参加申込み・
お問い合わせ先

お電話で代表者名と人数を

日本赤十字社 千葉県支部 総務部 総務課 ジュノー受付まで

Tel 043-241-7531 ※平日の9:00～17:30

災害に備えた救援物資の整備に

赤十字 事業推進パートナー 株式会社千葉銀行から活動資金のご寄付



▲毛布等災害救援物資の搬送

▶新たに整備する毛布イメージ

日本赤十字社千葉県支部では、5月16日(月)、事業推進におけるパートナーである株式会社千葉銀行から、6,942,380円の寄付金をお寄せいただきました。

この寄付金は、かねてから、日本赤十字社千葉県支部の“命と健康を守る”活動に協賛をいただき、同行が平成19年6月から販売している投資信託「ワールドサポーター（世界銀行債権ファンド）」の販売額の一定割合をお寄せいただいたものです。

当支部では、3月11日に発生した東日本大震災の被災者救援のため、千葉県内はもとより宮城県内の避難所に、備蓄中の「災害救援物資（毛布）」を約16,000枚お届けいたしました。

このことにより、震災前の毛布在庫約 21,000 枚が減少し、「いつ起こるともわからない災害」に備え、毛布の在庫整備が急務となりました。

今回の寄付金の全額は、災害救援物資（毛布）の整備に充てさせていただき、被災された方へのお見舞いメッセージを封入した毛布を購入いたします。

成田赤十字病院 公開健康講座のご案内

成田赤十字病院では、それぞれの分野の専門医師が講師となる健康講座を開き、健康に関する知識や情報をご提供しています。

会場は、いずれも、成田赤十字病院A棟 8階講堂です。ご近所の方とお誘い合わせの上、お申込みください。

なお、講座は期日、会場、テーマなど変更させていただく場合がありますので、事前にお問い合わせください。

●講座内容

期 日	テーマ	講師
7月21日(木) 14:00~15:30	ジェネリック薬品について (定員100名)	薬剤部長(職務代理) 秋葉 登世美
9月29日(木) 14:00~15:30	更年期の過ごし方 (定員50名)	印旛地区助産師会 下総放射線技師会
10月28日(金) 14:00~15:30	心臓血管外科はここまでできる (定員100名)	心臓血管外科部長 飯田 浩司 医師

申込み・お問い合わせ先 ▶ 成田赤十字病院 社会課 公開健康講座係 Tel 0476-22-2311(代表) ※平日の9:00~16:30

耳より情報!! 現在販売中の人気赤十字商品

くろくま・ぬいぐるみ CroKuma

人の気持ちを優しくしてくれて癒しの存在でもある“くま”のぬいぐるみ。“CroKuma”（くろくま）とは、“赤十字とみんなの気持ちをクロスするくま”から名付けられました。愛らしいマスコットタイプのぬいぐるみです。贈り物にいかがですか。キーホルダータイプもあります。

ご購入を希望される方は、直接(株)日赤サービスまでお申込みください。
(お問い合わせ・ご注文は) (株)日赤サービス Tel 03-3437-7515
<http://www.nisseki-service.com/>
または



販売価格 1,500円
(消費税込、送料別)
素 材:生地/レーヨン
中綿/PP
サイズ:約260×130×100
重 さ:166g(ケースなし時)
梱 包:個別PP箱梱包



そこに、守りたい命がある。活動資金ご支援のお願い

東日本大震災発生直後から、日本赤十字社では全組織を挙げて、最前線での医療救護活動に取り組んでまいりました。私たちは、一刻を争う国内外の災害救護をはじめ、健全な青少年の育成、赤十字ボランティアの育成など、様々な人道的事業・活動を展開しています。

日本赤十字社のごような活動は、赤十字の理念にご賛同いただき、活動資金のご提供をいただく方々に支えられています。年間を通じて活動資金のご支援をお願いいたします。

お問い合わせ先 日本赤十字社 千葉県支部 総務部振興課(しんこうか) Tel 043-241-7531
(内線 520~522)

